

特別企画

学校運動部活動と連携するクラブ

NPO法人 なんでもエンジョイ面瀬クラブ 〈宮城県気仙沼市〉

中学校運動部活動を巡っては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

このような中、平成30年3月にスポーツ庁において「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定され、ガイドラインの中で総合型クラブと中学校運動部活動の連携が期待されています。

そこで、今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取組を紹介します。

1 クラブ概要

中学校運動部活動との連携の経緯／クラブ設立との関係性

なんでもエンジョイ面瀬クラブの設立母体である面瀬地区体育振興会は、昭和59年に誕生した面瀬学区の公民館事業、社会体育事業の推進のために昭和60年に発足しました。発足後、地域の公民館を中心とした地道な社会体育活動を続けてきましたが、「活動のマンネリ化」「子供たちの運動活動支援の行き詰まり」等、いくつかの問題点が見えてきました。そこで、当時の面瀬地区体育振興会会長は、問題点解決のきっかけとして、発足してから15周年にあたる平成11年に、子どもから高齢者までを参加対象とするウォーキングイベントを開催しました。このイベントは200名以上の参加がある大盛況イベントとなりました。また「面瀬ふれあい交流会」と称する中学校との交流イベントも開催しました。このイベントは後に発足される「面瀬中学校部活動連絡協議会」のベースとなる活動となります。

そのような活動を行う中で、地域の課題解決のためのアプローチも考えました。その一環で、総合型地域スポーツクラブの存在を知り、先進事例であった愛知県半田市の成岩スポーツクラブの取組について学び、総合型地域スポーツクラブであれば、体育振興会ではできなかった社会体育の範疇を超えた活動、つまり、小中学校との連携を図り、学校任せでなく、地域一体で子どもたちを教育／育成する活動ができるのではないかと思うようになりました。

一方で、面瀬地区の面瀬中学校の部活動においては、「生徒数／職員数の減少に伴う部活動廃止」「部活動指導を行う教員減少」「競技レベルの低下」などのいくつかの問題点が発生していました。当時の面瀬中学校の先生(地区中体連事務局運営の担当)は、ウォーキングイベントや「面瀬ふれあい交流会」を主催した面瀬地区体育振興会に注目し、面瀬地区体育振興会となら、連携して部活動の問題解決ができるのではないか、との思いに至りました。

くしくも、面瀬地区体育振興会と面瀬中学校は、お互いが“連携したい”との思いで合致し、連携に向けて、協議を開始することになりました。平成12年から総合型地域スポーツクラブの活動も見据えた具体的な協議を行い、事例発表や案を出し合うなどの話し合いを重ね、平成13年6月に「面瀬中学校部活動連絡協議会」を発足させました。「面瀬中学校部活動連絡協議会」の支援内容／支援方針は以下になります。

支援内容: 面瀬中学校の部活動に、外部指導者を派遣し、実技の指導を行う。

支援方針: ①学校からの要請があった場合にのみ、指導者を派遣する。

②部活動は教育の一環なので、指導者は部活動顧問教員の指示の元で指導を行う。

発足時には、地元の新聞にも「地域住民がスポーツを通じて教育現場と一体となって、地域教育力を活性化するもの」と掲載されました。同時に「この取り組みは、今後ほかの地域でも避けては通れない課題」とも掲載されており、昨今の中学校部活動問題を先取りした活動と評価されます。

その後、「面瀬中学校部活動連絡協議会」は実際に中学校の部活動を支援する傍らで、運営の担い手となる総合型地域スポーツクラブの発足に向けて、面瀬地区体育振興会は、地区自治会、社会福祉協議会、小中学校と共に準備委員会を発足し、平成15年2月に「なんでもエンジョイ面瀬クラブ」(以降、「NEO」と呼ぶ)を設立しました。

2 取組内容

「面瀬中学校部活動連絡協議会」により現在も、NEOは、面瀬中学校に対して、外部指導者派遣による部活動支援を行っています。

協議会発足当初は、野球部・テニス部・バレーボール部・バスケットボール部・卓球部・剣道部・体操部・吹奏楽部と、文化活動部にまで外部支援者を派遣していました。しかしながら、現在は、生徒数の減少にともない廃止する部活動もあり、テニス部(男子)・バレーボール部(男子)・卓球部(男子・女子)を支援するに留まっています。また、東日本大震災による甚大な被害も相まって、子どもの数の減少だけでなく、適当な指導者も人材が減少していることも派遣する部活数減の要因として挙げられます。

クラブとしては、外部指導員として、

- ①「面瀬中学校部活動連絡協議会」の支援方針に賛同できること
- ②NEOの会員であること
- ③近隣住民であること
- ④ボランティアでの活動を了承してもらうこと

を条件としています。これは継続的に活動してもらうための条件(特に③)でもありますが、これらの条件に見合った指導員を探すのは難しくなっています。人口減少が進む中、この活動をどのように継続していくのが、今後の課題となると思われます。

3 中学校教員・保護者からも好評を得る外部指導者派遣

面瀬中学校の教頭先生や部活動顧問の先生からは「NEOの指導者は信頼できる」「先生の負担が軽くなっている」など、好意的なコメントが多く聞かれました。さらに先生からは「前の赴任先でも外部指導者が部活動に入ることはあったが、勝利至上主義など問題も多かった」とのことでもあったそうですが、現在のNEOの指導に関しては、今のところ、クレームが無いそうです。これは支援方針を守り、派遣指導者の人選を見極めている現在のNEO理事長の藤田敏秋氏とクラブマネジャーの小池良光氏の力量と思われる。また子どもたちからは、「楽しい」「コーチして欲しいことの相談がし易い」とのコメントがあがっているそうです。これはNEOの外部指導に対する期待の表れであり、必要とされている証拠とも言えます。

4

新任の先生・PTA等へ説明・交流会を実施 →地域に近いクラブへ

面瀬中学校は、「面瀬中学校部活動連絡協議会」の理解を得るために、新任の先生に対しては、6月までに協議会について説明を行い、PTAに対してもPTA集会などで説明を行っています。また、毎年11月にはNEO、中学校、父兄が合同で参加する交流会も開催され、NEOは地域により身近な存在として知られています。地道ですが、こうした活動の積み重ねにより地域の理解を得ることが、日頃の部活動支援をやりやすくしている要因と思われます。

5

今後の課題

外部指導者派遣を継続させるためには、父兄の協力を得ることや、指導協力者を増やす等、以下の課題が考えられます。

- 運動部の低迷を活発化させるため、及び種目の減少の対策として一部の運動部に偏った入部希望者を分散化させること。
- 中学生の部活動の目的、趣旨等を確認し、勝利至上主義にならない支援方針を確立すること。
- 現在、指導協力者は全員勤め人が夜間の指導支援を実施、生徒を夜間会場まで送迎するには父兄の協力が不可欠なため、その協力・了承を得るための説明ができること。
- 元運動部の経験者の発掘、指導協力者の参加要請方法/手続きを確立すること。

6

外部指導者派遣には人材の確保と中学校との コミュニケーションが重要

NEOの中学校部活動支援を見ると、以下の2点が重要であるように感じます。

- 派遣指導者を人選できる人材がいること。
(NEOの場合、藤田理事長と小池マネジャー)
- 中学校(PTAも含めて)の了承を得ること。
(NEOの場合、中学校からの部活動指導の支援に関する要望・アプローチもあった。)

部活動支援を考える場合は“中学校の要望をヒアリングすること”がスタートだと思います。

(宮城県クラブアドバイザー 佐藤 浩一)

クラブプロフィール

- クラブ名** NPO法人なんでもエンジョイ面瀬クラブ
- 設立年月日** 平成15年2月23日(NPO法人取得 平成15年12月24日)
- 所在地** 宮城県気仙沼市面瀬地区
- 運営** 会員数 141名(平成30年6月末現在)、予算規模163万円(平成30年度)
- 有給職員** 0名
- 特徴** 気仙沼市面瀬地区(対象エリア人口:約6,400人)で、地域社会の活性化と地域の教育力の増進を目的に、様々なスポーツ活動・文化活動・レクリエーション活動を提供し、元気で健康な連帯感に満ちた「面瀬の地域づくり」を進めている。
- 連絡先** 〒988-0153 宮城県気仙沼市松崎面瀬47-36
TEL 0226-25-9272 FAX 0226-25-9272
E-Mail neo.club2003@gmail.com
URL <http://omose-neoclub.com>



ソフトテニス部



バレーボール部



卓球部